Ｄ－１　成果

① 子どものよさを生かす題材の設定

初めて触れるローラーにどの子も興味を持ち、いろいろなローラーを試しながら、色の組み合わせを楽しみ、活動を進めていた。何をしたらいいのか分からないという子もまずはローラーを転がしてみたり押してみたり、また、いろいろな色を使ってみるなど様々な方法を試している姿が見られた。

② 発想を引き出し活用させる手だて

製作途中に『どれどれタイム』をとったことは、手が止まっている子の発想を引き出すことに効果的であった。友だちの作品のよさに触れることで、教え合い学び合いという関わり合いができていた。手がかりをつかむことでわざを試し、そこに自分なりの工夫を加えてそれぞれが自分らしい作品を製作することができた。また、児童一人一人の心に寄り添うような言葉かけや発想のヒントになるような言葉かけを行うことにより、個性を生かした活動の後押しができた。

③ 知識や技能を習得させるための手だて

もっとローラーの可能性を探りたいという思いはあっても､子ども達の知識や経験だけでは、発想や技能に限界がある。そんなとき､「この模様どうやって作ったと思う？」「このテープはどうやって、ローラーと組み合わせるかわかる？」と全体に投げかけたり、一人一人の手を取って技術を指導したりした。適切な支援をすることで止まった思考や活動が動きだし、深めさせることができた。

④ 評価の工夫

作品を展示するにあたり、出来上がった作品をしっかりと見つめさせ、イメージを広げさせて題名をつけるようにした。はじめは見つけたわざを組み合わせてなんとなく出来上がった作品も、題名を工夫してつけることで子ども達にとって作品がより身近に感じられるようになったようである。そして、手作りの額や本物の額に入れることでさらに自分の作品への思いが高まったようである。その後の鑑賞会では、友だちの作品から友だちの思いや工夫を感じ取ろうとする積極的な子ども達の姿がみられた。